

# 鹿児島医セン

鹿児島医療センター（循環器・脳卒中・がん専門施設）

2011.10 vol. 66

## 第18回日本心血管インターベンション治療学会 (CVIT) 九州沖縄地方会を終えて



まだまだ夏真っ盛り、暑い中8月26日、27日の二日間にわたって、城山観光ホテルにて第18回CVIT九州沖縄地方会を開催致しました。この学会はもともと二つに分裂していたインターベンションの学会が一つになり、今回が第二回目の開催となるもので、今後の方針方向付けのためにも重要なものでした。今回の学会のテーマとしては「インターベンションナリストの進むべき方向—より安全な治療をめざして—」という幾分漠然としたやや大げさなテーマでしたが、この点は私が今まで常に心がけてきたテーマであり、今後若い先生たちにとって極めて重要と考えられる事柄について学会で議論しました。

パネルディスカッションでは、今後非常に重要と思われる学会の屋台骨ともなるCVIT専門医制度について検討しました。専門医制度の基本概念から、実技試験までとかなり充実した内容であったと思います。特別講演1としては、近畿大学医学部循環器内科の宮崎俊一先生をお招きして、「若手インターベンションナリストに伝えておきたいこと—PCIのこれまでとこれから—」と題して講演していただきました。これまでのインターベンションの歴史を振り返り、今後の未来像についてのお話でとてもまとまりのある素晴らしい内容であったと思います。特別講演2としては、倉敷中央病院心臓血管外科の小宮達彦先生に「外科手術とカテーテル治療—プロとしての治療選択の責任—」と題して講演していただき、現在は可能であれば内科治療を優先する傾向にあるが、そうではなく外科を含めた治療、あくまで患者様の為になる方法を選択するべきだろうというものでした。この点は私たちも常に心がけていることなので、同じ考えを持つ先生がいっしょにということが再認識できた講演でした。私たちの病院で普段行っている治療こそ、今後全国で目指していく治療であると思われます。もちろん手技に関する修練は必要ですが、





このように内容的に極めて充実したものであり、参加人数も400人と盛会のうちに無事終了することができました。これもひとえに学会開催にあたって御尽力くださった当院スタッフの皆さんをはじめ、第一



循環器科・第二循環器科の枠を越えて御協力頂いた先生方のおかげだと思い、感謝しているところです。  
(文責:第1循環器科医長 中島 均)



## 第18回 CVIT九州沖縄地方会の余韻

学会当日はコメディカルパワーに圧倒されました。CVITは、心血管患者に対する有効かつ安全なカテーテル治療の開発と発展、及び臨床研究の推進とその成果の普及をもって、診断治療技術の向上と学術文化の発展に資することにより、心血管疾患の予後改善の責務を広く社会に果たすことを目的として設立された学会であります。



疾患の予後改善はチーム医療から成し得るものであり、Co-medical（医師以外の医療従事者の総称）の力が発揮されて初めて医療機関の責務が果たせることは周知の通りです。医師はチームの一員として、他のチームメイトの意見・忠告・指導を仰ぐ立場にあり、本学会において「医師への要求 円滑な検査・治療のために」というテーマでのコメディカルパネルディスカッションコーナーを設けました。



医師に対する主な要求は以下の通りでありました。

- (1) 検査や治療計画を事前にチームで徹底させてほしい。
- (2) 言葉に気を付けて欲しい。「あれを出して」と言われても何も出せない、蚊の鳴くような小声での指示、患者の横でのふとした会話の内容、チームメイトに感謝・敬意を、等。

医師はチームメイトのテンションを下げないようにチームをまとめるべきであるという忠告があり、おそまきながら肝に銘じたところでありました。逆に、社会保険 小倉記念病院 心カテ室からは、さらっと「医師のテンションを下げないように気を遣っている」とのコメントがあり、最も圧倒された場面でありました。Co-medicalという名称の存在には、以前から抵抗を覚えていましたが、その思いがさらに強くなりました。なぜ、Coを付けて区別する必要があるのか、いまだに学会の余韻がさめないところです。

御協力いただきました職員の皆様に感謝いたします。

(文責:第1循環器科医師 奥井 英樹)



## 当院の未収金対策について

「未収金の発生」は医業にかかわらず、常に起こりうることです。

回収ができなかったからといっても、未収金は会計上は収益として扱われ、病院経営を脅かす存在ではありません。また、その収入を得るために係った費用(人件費・材料費)の支払いを遅らせる訳にもいきません。

よく、医療費の未払が無銭飲食に例えられますが、無銭飲食には警察が動きますが、医療費の未払には警察も介入しません。それでは、医療費の未払いを理由に診療を拒否できるかと言うと、医師法に、患者から診療の求めがあった場合には正当な理由がなければ拒否できない規定あり、医療費の未払はこの正当な理由には当たらない、と言うのが通説的見解です。

そうといったことを考慮した上で、未収金対策として次の4つを考えてみました。

### 1. 発生防止

まずは未収金を発生させないことが一番です。  
そのために、過去の滞納履歴の把握が大切です。  
また、どのような場合に発生するか、ケースを掴んでおきます。

### 2. 債権管理の徹底

未収金を発生させないためには、まずは未収金の発生を迅速に把握しなくてはなりません。  
未収金の個人別内訳を、常に把握しておく。

### 3. 回収努力

万が一、未収金が発生した場合の対応・回収方法をルール化しておく。  
電話・手紙等による督促連絡に加えて、法的措置を行う。

### 4. 支払い方法の簡便化

支払う意志をお持ちの患者でも、現金の持ち合わせがない場合もあります。  
そのような場合に対応できるように、分割回収やカード決済を導入する。

未収金の回収は、時間の経過に伴って回収が難しくなります。一部の職員のみで担当するのではなく、各部門が連携しチームで取り組むと、自ずと結果がでます。

(文責:経営企画係長 田中 昭人)

## 新任紹介



脳神経外科  
医

おた だいすけ  
半田 大助

平成23年8月より熊本から赴任致しました。鹿児島での生活ははじめてとなります。鹿児島医療センターでの勤務を始めてまだ2ヶ月程度ですが、早く生活と職場に慣

れるよう努力し、脳卒中医療を中心として外科的治療から脳卒中センターの一翼を担えるよう頑張る所存です。ご指導のほどよろしくお願ひ致します。



## 循環器合同カンファレンスへのお誘い

当院では、毎週月曜日午後8時から手術適用症例などについて、循環器内科・心臓血管外科・麻酔科・リハ科など合同で症例検討会を開催しています。オープンですので治療方針等について悩んでいらっしゃる症例がありましたら提示していただき、一緒に検討できればと思います。遠慮なくご参加お願い致します。

問い合わせ先

鹿児島医療センター 地域医療連携室

☎ 099-223-1151 (内線 7344) ☎ 0120-334-476

# 11

## 11月看護研修のご案内

主催 鹿児島医療センター看護部教育委員会

### 集合教育 グリーフケア

- 日 時：平成23年11月25日(金) 18時30分～19時30分
- 場 所：大会議室
- 講 師：緩和ケア認定看護師 神崎 美保子
- 対象者：医療関係者

\* 参加ご希望の方は準備の都合上、各コース3日前までに企画課(総務)までご連絡下さい。院外の方のご参加をお待ちしています。

☎ 099-223-1151 (内線 7303) FAX 099-226-9246

## 平成23年度がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会を開催します

毎年、年明けの恒例行事となりました、当院主催の緩和ケア研修会を開催します。講師は、KKR札幌医療センター 緩和ケア科 瀧川千鶴子先生および県内で当初よりこの研修会に尽力いただいた医師、看護師の方々をお願いしております。医師のみならず、看護師、薬剤師、MSWなど多職種参加の研修会とする予定です。

- 開催日：平成24年1月8日(日)・9日(月)
- 申込〆切り：平成23年11月25日(金)
- 場 所：かごしま県民交流センター

詳細は、HP; <http://www.kagomc.jp/> をご覧ください。

問い合わせ先

耳鼻咽喉科

松崎 勉

matsu@kagomc2.hosp.go.jp

## 編集後記



暑さも落ち着き、過ごしやすい日々が続いております。  
さて、今月の7・8日と岡山で開催されました第65回国立病院総合医学会に口演発表で参加してまいりました。今回は震災に対して国立病院機構は何ができたかなどを中心に聞かしていただきました。さらには、特別講演では2日ともに非常

に感銘を受ける口演を聴講でき、また、岡山城天守閣前広場で行われた全員交流会も場所・雰囲気・料理とも素晴らしく、非常に有意義な2日間を過ごすことができ、また日々の仕事に生かしていきたいと思うところです。

(担当:井上)

■お問い合わせ先

独立行政法人  
国立病院機構

# 鹿児島医療センター

 (循環器・脳卒中・がん専門施設)

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号 (代)TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246  
<http://www.kagomc.jp> 脳卒中ホットライン ▶ 090(3327)5765

【地域医療連携室】 濱田・今泉・永重・井上・神崎・森・中島・吉留・木ノ脇・水元・酒井  
直通電話▶099(223)4425 フリーダイヤルFAX専用▶0120(334)476  
※休日・時間外は当直者で対応します。

